雑誌『新児童文化』（第２期）総目次　（1946年8月・復刊第1冊～1951年6月・第7集）

著者	大木 葉子
雑誌名	東北工業大学紀要　理工学編・人文社会科学編
号	43
ページ	103-115
発行年	2023-03-31
URL	http://doi.org/10.51048/00000235

Creative Commons : 表示 - 改変禁止
http://creativecommons.org/licenses/by-nd/3.0/deed.ja

雑誌『新児童文化』（第２期）総目次
（1946 年 8 月・復刊第 1 冊～1951 年 6 月・第 7 集）

General Index to the Magazine "Shin Jido Bunka" (2nd period) (August 1946, 1st Reprint - June 1951, 7th Reprint)

大木　葉子*
Yoko OKI*

概要

"Shin Jido Bunka" was a general children's culture magazine for adults published in 1940. The first period was from December 1940 to May 1942, with a total of four issues published by Yukosha, edited by Seika Tatsumi. After World War II ended, the magazine was reprinted in August 1946, and the first reprint was published by Chuo Shuppan Co. Thereafter, the second through seventh volumes were edited by Hiroshi Sugo, and a total of seven volumes were published by Kokumin Tosho Shuppan Kai until June 1951.Previous studies have pointed out that "Shin Jido Bunka" was an important journal when considering the situation of children's literature and children's culture during the war. In the second period when the magazine was reprinted after the war, it is said to have actively pursued new forms of children's culture and literature under the circumstances where conscientious children's magazines launched after the war were discontinued one after another due to the rise of popular entertainment magazines. However, until now, there has been little research on its operations. Although several studies have already been conducted on the table of contents of the first period, there is no general table of contents for the second period, and almost no research, including information on authors, has been conducted on the contents of the second period.
In this report, we will compile a general table of contents for "Shin Jido Bunka" (2nd period), which is a valuable source of information on the state of children's culture and literature during and after the war, in order to open the way for research on the "Shin Jido Bunka".

1. はじめに

『新児童文化』は、1940 年（昭和 15）に発行された大人を対象とする総合児童文化雑誌である。小川未明や坪田譲治、新美南吉、与田準一等の童話、童謡、詩作品および波多野完治や菅忠道等の評論を中心に、児童文化・児童文学についての実践､研究が主な内容となっている｡1 期は 1940（昭和 15）年 12 月から 1942（昭和 17）年 5 月まで、巽聖歌[1]編集で有光社より全 4 冊が刊行された。

創刊には、戦時下における児童文化・児童文学政策が大きく関与していた。1938（昭和 13）年 10 月、内務省は「児童読物改善ニ関スル内務省指示要綱」を決定し、児童図書浄化政策に乗り出す。それにより商業化した児童図書の浄化が進むとともに、一時的に芸術的児童文学の復興現象が起きることとなった。そうした状況下で、創刊されたのが『新児童文化』である。

創刊号の巻頭に「一国の意志、天を衝かむとして、意気正に昂然たり。高度国防国家理念、是なり。」との理念が掲げられた『新児童文化』は、国家意識が強く反映した雑誌である一方で、「「新児童文化」は、児童文学を中心として、正しき明日の児童文化建設を目的とし、而してまた、その一方、新しき児童文化の研究指導、批判評論に重

2022 年 9 月 29 日受理
* 総合教育センター准教授

点を置く」、「新児童文学実践の場」、「新児童文化指針の場」[2]であると述べられており、まさに「官民合同児童文化運動の機関誌」[3]としての性格を強く担っていた。

しかし、1942（昭和 17）年 5 月、情報局の雑誌統合政策により日本少国民文化協会の機関誌『少国民文化』に統合されることとなる。

戦後になり『新児童文化』は、1946（昭和 21）年 8 月に『季刊新児童文化』として復刊された。第 2 期の復刊第 1 冊は中央出版株式会社より、第 1 期同様に巽聖歌編集で出版された。以後第 2 冊から第 7 集までは周郷博[4]が編集し、1951 年 6 月まで国民図書刊行会より全 7 冊が出版された。

これまでの研究では『新児童文化』は、「近代日本児童文学史の中で唯一の総合的な児童文化雑誌」として「児童文学の評論研究に尽力した意義は大きい」[5]とされ、戦時下の児童文学・児童文化を考える際に重要な意義をもつ雑誌であることが指摘されてきた。関英雄は『新児童文化』について、「色濃い時勢時局の反映」と同時に「『赤い鳥』の文学運動以来のリベラルな視点」と「巾の広い執筆陣を心がけた点」に意義があるとし、「戦争下の“夕映え復興”を集中的に反映したアクチーブでモニュメンタルな運動誌」[6]であると指摘する。

また、戦後に復刊された第 2 期に関しても、戦後に創刊された良心的な児童雑誌が次々に廃刊する時代状況下において、「社会の混乱激動の中、現実の児童や児童文化をみつめ、将来の指標を求め」、「新しい時代の児童文化のありようを積極的に見出そう」[7]としていたことが指摘されている。

このように『新児童文化』は戦時下から戦中を結ぶ児童文化、特に芸術的児童文学の流れを考える際に重要な位置づけを持つ雑誌であった。しかしこれまでその内実についての研究はほとんどなされていない。具体的な雑誌内容に関しても、第 1 期の総目次に関しての調査にとどまり[8]、第 2 期に関しては総目次の整備もなされておらず、執筆者情報も含め研究が手つかずの状況にある。

以上のことを踏まえ、本稿では戦中から戦後にかけての児童文化・児童文学状況を知る貴重な資料である『新児童文化』研究の端緒を開くべく『新児童文化』（第 2 期）の総目次を作成することとする。

（注）

1　巽聖歌：1905（明 38）年～1973（昭和 48）。詩人、童謡作家、児童文学作家。白秋門下として『赤い鳥』に童謡を発表。その後 1942（昭和 17）年の日本少国民文化協会発足時には文学部会幹事に就任する。戦後は児童文学者協会の創立（1946 年）にも携わった。

2　「新児童文化」（『新児童文化』第 1 冊、有光社、1940. 12）

3　浅岡靖央『児童文化とはなんであったか』（つなん出版、2004. 7、ｐ171）

4　周郷博：1907（明治 40）年～1980（昭和 55）年。教育学者、詩人。学生時代に『赤い鳥』に童謡、詩を発表。1940（昭和 15）以降は児童文化についての評論を発表した。戦後は『新児童文化』をはじめとした雑誌の編集に携わるとともに教育関係の著作を残した。

5　岡田純也「新児童文化」（『日本近代文学大事典』講談社、1977. 11、ｐ193）

6　関英雄『体験的児童文学史後編』（理論社、1984. 12、ｐ278 - 279）

7　伊庭逸子「新児童文化」（『日本児童文学大事典』大日本図書、1993. 10、ｐ584）

8　山本明「一五年戦争末期の雑誌（三）―少国民文化協会の出版物―」（『評論・社会科学』第 27 号、同志社大学人文学会、1985. 5、ｐ117 - 152）、根本正義「雑誌『新児童文化』（戦前版）総目次―国語教育に関する資料の紹介―」（『学芸国語国文学』第 17 号、1982. 3、ｐ67 - 79）

2.『新児童文化』（第 2 期）概要

『季刊新児童文化』復刊第 1 冊

- 定価 15 円（税共）
- 昭和 21 年 8 月 1 日印刷
- 昭和 21 年 8 月 10 日発行
- 編輯者　巽聖歌
- 発行所　中央出版株式会社

＊「目次」に「宣言・あたらしい児童文化を強く明るくしっかりと築き上げよう」記載

『季刊新児童文化』第 2 冊
「特集・現代アメリカ児童文化」

- 定価 50 円（送料 5 円）
- 昭和 22 年 9 月 1 日印刷
- 昭和 22 年 9 月 5 日発行
- 編集者　周郷博
- 発行所　国民図書刊行会

『季刊新児童文化』第 3 冊
「特集・民主主義と児童観」

- 定価金 95 円（送料 10 円）
- 昭和 23 年 10 月 10 日印刷
- 昭和 23 年 10 月 15 日発行
- 編集者　周郷博
- 発行所　株式会社国民図書刊行会

『新児童文化』第 4 冊
- 定価 190 円（送料 15 円）
- 昭和 24 年 11 月 10 日印刷
- 昭和 24 年 11 月 15 日発行
- 編集者　周郷博
- 発行所　株式会社国民図書刊行会

＊ 表紙に「季刊　児童文化研究誌」「日本社会と児童文化」記載

『新児童文化』第 5 集
- 定価 180 円（送料 15 円）
- 昭和 25 年 5 月 20 日印刷
- 昭和 25 年 5 月 25 日発行
- 編集者　周郷博
- 発行所　株式会社国民図書刊行会

＊表紙に「季刊　児童文化研究誌」記載

『新児童文化』第 6 集
- 定価 180 円（送料 15 円）
- 昭和 25 年 9 月 20 日印刷
- 昭和 25 年 9 月 25 日発行
- 編集者　周郷博
- 発行所　株式会社国民図書刊行会

＊ 表紙に「季刊　児童文化研究誌」記載

『新児童文化』第 7 集
「特集・子供の自由と規律」
- 定価 200 円（送料 15 円）
- 昭和 26 年 5 月 25 日印刷
- 昭和 26 年 6 月 1 日発行
- 編集者　周郷博
- 発行所　株式会社国民図書刊行会

＊ 表紙に「季刊　児童文化研究誌」記載

3. 総目次

【凡例】
- 旧字体は原則として新字体に改めた。
- タイトルは原則として本文からとり、各号の目次に記載のタイトルと本文中のタイトルが異なる場合、本文タイトルを採用した。
- ジャンルは原則として各号の目次および本文中の表記に従った。表記がない場合、散文作品は「童話」、詩・童謡作品は「詩・童謡」と適宜補った。それ以外についても、本文の内容に従い適宜補った。
- 著者等の記載のないもので類推可能な場合は（　）内に＊印を付して記した。
- 「執筆者紹介」は各号の「執筆者紹介」の欄に従って肩書を記した。
- 本文に見出しがない場合も各号の目次に見出しが書かれている場合は、それを補った。
- 各号の目次はジャンルごとに記載されているが、本総目次では本文の掲載順とした。

『季刊新児童文化』（復刊第一冊）昭和21年8月10日発行　中央出版株式会社

記事	著者	執筆者紹介	画	ジャンル	ページ
目次			栗木幸次郎		
詩二つ					
こんなことで	巽聖歌			詩	4－5
太郎	巽聖歌			詩	6－7
雲と子守唄	小川未明		富樫寅平	童話	8－16
屁	新美南吉		小山内龍	童話	17－33
城下町	森三郎		深澤省三	童話	34－56
ぎんのさかな	西山敏夫		深澤省三	童話	57－61
雪女郎	鈴木博信				
雪女郎	鈴木博信			詩・童謡	62
小庭	鈴木博信			詩・童謡	62－63
氷柱	花方時二郎				63
氷柱	花方時二郎			詩・童謡	63
稲荷講	花方時二郎			詩・童謡	64
雪晴れ	花方時二郎			詩・童謡	64
悪童日記	関英雄		八島進	童話	65－85
自転車乗り	平塚武二		中尾彰	童話	86－100
作品募集					100
天の村	阪本越郎		大澤昌助	童話	101－117
鼠と雀と小父さん	与田準一			詩	118－121
新児童文化の建設のために	菅忠道	児童文学者協会委員	栗木幸次郎	評論	122－129
再生児童文化の課題	波多野完治	法政大学教授	栗木幸次郎	評論	130－135
新生児童文化に送る言葉	百田宗治	詩人	野村千春	評論	136－162
童話文学の再建	塚原健二郎	作家	栗木幸次郎	評論	163－166
匿名評論（絵本）				評論	167
『風大歌』のこと	森荘己池	作家		評論	168－173
昔ばなしの復活	巽聖歌			評論	173－176
初等教育の将来	城戸幡太郎	文部省教育研修所員	栗木幸次郎	評論	177－183
学校と社会	宗像誠也	大日本教育会調査課長		評論	184－189
教育の再出発	下村湖人	教育家		評論	190－195
今日の教育は如何にあるべきか	住田正一			ハガキ解答	196－197
	石井悌				
	吉田甲子太郎				
	加藤武雄				
	菅井準一				
	日比野士朗				
読書指導の実践	高橋九一	岩手県地方事務官		評論	198－204
戦災地と児童生活	松葉重庸	児童文学者協会委員		評論	205－207
疎開学童の諸問題	池岡千代子	国民校訓導		評論	208－213
匿名評論（文学）	佐野幸雄			評論	214
ソ連の児童文化	福井研介	外務省調査第二課			215－224

執筆者紹介					224
アメリカ最近の児童出版	周郷博	農大講師			225－229
児童文化時報					230－231
地方だより					
自尊心の回復（東京）	古谷綱武	評論家			232－233
山里の手帖（福井）	山本和夫				233－234
よしなしごと（岩手）	巽聖歌				234
各地児童文化通信					
関西	石橋達三				235
中京	中條雅二				235－236
九州	中川武				236－237
東北	羽生操		栗木幸次郎		237－238
編集後記	巽聖歌				239－240

挿画　大澤昌助、小山内龍、栗木幸次郎、富樫寅平、中尾彰、野村千春、深澤省三、八島進

『季刊新児童文化』（第二冊）「特集・現代アメリカ文化」昭和22年9月5日発行　国民図書刊行会

記事	著者	執筆者紹介	画	ジャンル	ページ
目次			栗木幸次郎		
犬と友達	坪田譲治		栗木幸次郎	童話	4－12
上海の風	小田嶽夫		深澤省三	童話	13－22
ザイツェフ夫人の音楽会	佐々木望		深澤省三	童話	23－37
童話作家ヴアイニング夫人					37
さくらの木の植えかえ	与田準一			詩	38－39
少年詩人	与田準一			詩	39
父や兄の洗いきよめた道のうえを	百田宗治			詩	40－44
子だぬき	横山トミ			童話	45－47
赤ちゃん	清水たみ子			童話	47－49
風船は空に	塚原健二郎		中尾彰	童話	50－59
とうげの茶屋	小川未明		齋藤長三	童話	60－67
新しい児童文化運動の基礎	国分一太郎			評論	68－80
児童文学の展望	水藤春夫			評論	81－86
生活困窮家庭の児童のために	三野亮			評論	87－93
小さい魂の訴え	阪本越郎			評論	94－99
『家』と子供	玉城肇			評論	100－106
新美南吉の童話	波多野完治			評論	107－115
現代アメリカ児童文化特集					
アメリカ児童の基礎訓練	海後宗臣				116－122
アメリカの子供はどんな本を好むか					122
アメリカの学校	周郷博				123－130
教科書に見るアメリカの児童文化	矢口新				131－137

アメリカの児童と図書館	坂西志保				138－140
アメリカの少年のうた	堀内敬三				140－143
アメリカの児童画	久保貞次郎				143－146
アメリカにおける遊具	竹田俊雄				146－149
アメリカの子供の服装	本田千太郎				149－151
児童の健康と保護に関する白亜館会議のことについて	三木安正				152－157
現代アメリカ子供の本	小出正吾				158－164
アメリカの小学読本より					164
児童文化関係法令					
教育基本法					165－166
学校教育法					166－174
教育使節団から日本へ贈られた児童図書の目録				目録	175－194
紹介					
PTAの活動　アメリカの両親と教師の会はどんな活動をしいてるか					195－196
児童文化団体の動き					197－199
編集後記	周郷博				200

挿画　栗木幸次郎、齋藤長三、中尾彰、深澤省三

『季刊新児童文化』（第3冊）「特集・民主主義と児童観」昭和23年10月15日発行、国民図書刊行会

記事	著者	執筆者紹介	画	ジャンル	ページ
目次					(*2)－3
特集評論・民主主義と児童観					
民主主義と児童観	城戸幡太郎	元文部省教育研究所長		評論	4－ 8
国民性の欠陥と幼児教育	藤原咲平	元中央気象台長		評論	9－14
デモクラシイ　教育使節団報告書					14
生活綴方教師の児童観	国分一太郎	教育評論家		評論	15－20
作文の中のこども	吉田瑞穂	東京都曳舟小学校教諭		評論	21－32
いかなる児童観を	石橋勝治	東京都四谷第六小学校教諭		評論	33－37
自治組織としての「子供会」	川崎大治	童話作家		評論	38－45
上野の浮浪児	宮本卓	東京都保谷第一小学校教諭		評論	46－49
ソ連の児童図書（米誌より）					49
最近の読書調査	牛島義友	東京女子高等師範学校教授		評論	50－56
児童の読書静態と動態	児玉省	日本女子大学教授		評論	57－69
駅うら	与田準一		茂田井武	詩・童謡	70－71
ともたち	佐藤義美			詩・童謡	72

芽の玉	丸山薫			詩・童謡	73
新児童文化展望					
児童文学	塚原健二郎				74ー76
児童演劇	宮津博				76ー79
児童映画	望月衛				80－81
児童のための教育映画	阪本越郎				81ー87
人形劇	川尻泰司				87ー89
こどもの広場	石原耕作				89ー91
保育	塩谷アイ				91ー93
童画界の一瞥	齋藤長三				93ー95
エッセンシャリストとは？（米誌より）					95
きんかん	港野喜代子		中尾彰	詩・童謡	96ー97
実験室					
一つの実験ーすいれん文庫を中心としてー	すいれん子供会委員会				98ー101
一編集者の手記	藤田圭雄				102ー106
北欧の春とこども	衣奈多喜男	朝日新聞社欧米部			106ー109
ハンスの横顔	金田鬼一	グリム研究科			109ー112
執筆者紹介					112
村の童話	秋山六郎兵衛		中尾彰	童話	113ー123
五つぶのドロップス	磯部忠雄		脇田和	童話	124ー131
雀	江口榛一		桜井悦	童話	132ー140
タコをとばす	坪田譲治		さわい・いちさぶろう	童話	141ー150
新児童文化提言（編集後記）	周郷博				151ー152

表紙　栗木幸次郎、さしえ・カット　中尾彰、桜井悦、茂田井武、栗木幸次郎、澤井一三郎、脇田和

『新児童文化』（第4冊）「日本社会と児童文化」昭和24年11月15日発行　国民図書刊行会

記事	著者	執筆者紹介	画	ジャンル	ページ
目次					
萬の死	小川未明		山下大五郎	童話	4ー９
父のメルヘン	与田準一		茂田井武	童話	10ー17
カルガンの星の歌	佐々木望		深沢省三	童話	18ー29
社長の帽子	木内高音		喜田村知	童話	30ー36
三つの色	松谷みよ子		山下大五郎	童話	37ー46
新人紹介					
すずめ	芦田正己			詩	47
山の上のおとうと	（*芦田正己）			詩	47
雲雀詩集				詩	
冬の雲雀	巽聖歌			詩	48ー49
年輪	巽聖歌			詩	49
雲雀のこえは	巽聖歌			詩	49ー50

あしなが蜂の夕ぐれ	巽聖歌			詩	50－51
遠いところにいる友達	巽聖歌			詩	51－52
木の葉はみんな	巽聖歌			詩	52－53
戸口の蔭	巽聖歌			詩	53
ちゅうちゅうたこかい	巽聖歌			詩	53－55
家がない	巽聖歌			詩	55－56
古木の梅	巽聖歌			詩	56
検定教科書の諸問題	石田宇三郎			評論	57－67
児童作品					
夏の顔	和田誠他				68
作文について	百田宗治			評論	69－77
児童福祉と児童文化	鈴木道太			評論	78－82
童話の伝統と本質	山内秋生			評論	83－93
児童文化展望					
最近の児童映画	岩佐氏壽				94－95
幻燈を観る	阪本越郎				95－97
児童放送の問題	金杉廣一				97－98
街頭紙芝居のこと	佐木秋夫				98－99
子どもがわいせつな言葉を使用することについて	堀秀彦				100－108
こどもの性生活	望月衛				108－115
地方児童文化運動展望					
北海道	和田徹三				116－117
宮城	富田博				117
茨城	樫村一三				117－118
関西	石橋達三				118－119
広島	宮原無花樹				119
児童文学の危機	高山毅				120－124
座談会　戦後の児童文学を語る	猪野省三			座談会	125－137
	坪田譲治				
	吉田甲子太郎				
	百田宗治				
	与田準一				
	巽聖歌				
	周郷博				
英米における児童文学の発達	波多野完治				138－149
ホーソンの作品とその時代	奥栄一				150－153
ルイザ・メイ・オルコット	坂部清子				154－157
バーネット夫人と「小公子」	吉田甲子太郎				157－160
パァル・バック	新居格				160－162
新美南吉詩抄（遺稿）	巽聖歌				
春風	新美南吉			詩	164－165
墓碑銘	新美南吉			詩	165－166

父	新美南吉			詩	166－167
母	新美南吉			詩	167
帰郷	新美南吉			詩	167－168
仕立屋の娘	新美南吉			詩	168
牛	新美南吉			詩	169
草	新美南吉			詩	169－170
木	新美南吉			詩	170
冬の最後の日暮に	新美南吉			詩	170－171
百姓（１）	新美南吉			詩	171
百姓（２）	新美南吉			詩	171－172
百姓家	新美南吉			詩	172－173
昔ばなしと子供たち	三井為友			調査	174－187
新教育さまざま					
学級文庫経営の体験から	大野治義				188－192
五日制論議	滑川道夫				192－194
話行片々	原まさる				195－198
アメリカの推薦図書（1948）					199－202
匿名雑誌評	長谷川鉱平				203－206
	藤本一郎				
	三井為友				
国民に訴える（新制中学の建築について）	遠藤新				207－246
編集あとがき	周郷博				247－248

カット　喜田村知、栗木幸次郎、池邊一郎

『新児童文化』（第5集）昭和25年5月25日発行　国民図書刊行会

記事	著者	執筆者紹介	画	ジャンル	ページ
目次					
平和国家における社会と子供					
スイス	高瀬恒徳	日本聖公会主教			4－11
デンマーク	大谷英一	デンマーク研究家			11－21
フィンランド	市河かよ子	元市河フィンランド公使夫人			21－30
ノルウェー	衣奈多喜男	朝日新聞社会部			30－38
「黄金バット」と「少年王者」と「サザエさん」と					
流行マンガをえぐる「黄金バット」について	国分一太郎	作家			39－43
俗悪な本の問題	古谷綱武	文芸評論家			43－45
サザエさん	藤田圭雄	詩人、「少年少女」編集長			45－46
家庭漫画の強味	高山毅	作家			47－49
絵本について	伊藤廉	洋画家、美校教授			50－54

PTA活動への期待	二宮徳馬	文部省視学官			55－57
育ちゆく年（浮浪児の実態報告）	X・Y・Z		大野俊夫		58－68
中国における児童読物の出版	伊藤貴麿	中国文学研究家			69－73
糸まきをする母と娘	大木実	詩人		詩	74
清水あふれるところ	大木実			詩	75
あらしのあと	大木実			詩	75
安井先生	大木実			詩	76
べんとう	大木実			詩	76－77
道しるべ立つあたり	大木実			詩	77
アンデルセンの童話文学	矢崎源九郎	アンデルセン研究家			78－83
学校放送	鈴木博	NHK企画部教育課			84－87
執筆者紹介					87
「プー」ミルン、そのほか	石井桃子	作家			88－92
児童文化各界の動き―童話・児童劇・児童映画―					
童話文学にさす暗い影	船木枳郎	文芸評論家			93－97
児童劇の現状	斎田喬	劇作家			98－102
日本の児童向教育映画の現状	阪本越郎	詩人・映画評論家			102－111
映画から教育を見る	望月衛	東宝教育映画			112－117
どの道を行く―青少年問題対策				シンポジウム	
どの道を行く？！	守屋東	社会教育家・大東学園長			118－121
この道を行け	城戸幡太郎	元文部省教育研究所長			121－123
「どの道を行く」を読んで	永井萌二	「週刊朝日」編集部			123－125
原稿募集					125
新しい教育と文学	周郷博			座談会	126－143
	井坂行男	文部省初等中等教育局			
	与田準一				
	香山登一	「教育手帖」編集長			
編集だより					143
なぎさ　「万国旗」断章	与田準一	作家		童話	144－150
永遠の少年の物語	檀一雄	作家		童話	151－207
編集後記	周郷博				208

表紙　栗木幸次郎、　　カット　立石鉄臣、羽戸歩々

『新児童文化』（第6集）昭和25年9月25日発行　国民図書刊行会

記事	著者	執筆者紹介	画	ジャンル	ページ
目次					
カリキュラム論議はどうおちつくか	国分一太郎	作家		評論	4－9
児童憲章はいかにあるべきか					10

児童憲章					11－12
児童憲章について	山室民子	文部省社会教育施設課長		評論	12－15
児童憲章の批判	坂西志保	参議院文化委員会委員		評論	15－18
空想と科学ージュールヴェルヌの作品について	山主敏子	共同通信文化部		評論	19－23
アメリカ文化の一面	波多野完治	お茶の水女子大教授		評論	24－25
知能検査についての疑問	中野佐三	教育大学助教授		評論	26－30
子どもの詩の意味	与田準一	作家		評論	31－35
詩と綴方を通じてみた戦後の児童の精神構造	周郷博			座談会	36－58
	藤田圭雄	「少年少女」編集長			
	与田準一				
	国分一太郎				
	宮城音弥	東京工大教授			
恐龍と父と子	金関丈夫	九州大学教授			59－61
台湾の子供と日本の子供	黄鳳姿				62－67
執筆者紹介					67
作曲者から作詞者へ	高木東六	作曲家			68－71
詩人から作曲家へ	野上彰	詩人			72－74
子供にきかせたい世界の音楽	酒田富治	音楽評論家			75－83
あしたのうた	吉田一穂	詩人		詩	84－85
つばめ	丸山薫	詩人		詩	86－87
ほしのうた	佐藤義美	詩人		詩・童謡	88－89
最近の日米児童図書展望					
1950年上半期の児童図書	関野嘉雄	児童文化研究家			90－101
最近のアメリカの児童図書	光吉夏弥	翻訳著作家			102－114
日・中児童文化ニュース	伊藤貴麿	中国文学研究家		紹介	115
児童の読書傾向について	清輔道生	慶應義塾幼稚舎教諭		調査	116－121
私の幼少年時代と児童文学	小川未明	作家		ハガキ回答	122－123
	片山哲	前社会党書記長			
	矢野峰人	英文学者・詩人			
	柳家金語楼	落語家			
	井原宇三郎	洋画家			
	堀内敬三	音楽家・「音楽の友社」社長			
	小谷正雄	東大教授			
	三原脩	巨人軍監督			
農村児童文化の実態	今井誉次郎	西多摩小学校主席		レポート	124－131
児童画の諸問題	久保貞次郎	児童画研究家		対談	132－147
	齋藤長三	洋画家			
戦後の児童の問題作品					148
綴方　父や兄のこと	横戸栄子			綴方	149－150

母の死とその後	江口江一			綴方	150－159
別れ路	森田卿子			綴方	159－172
詩　朝・お手玉	佐藤幸子			詩	172
石人の頭の中の天書	中国民話　伊藤貴麿訳			翻訳	173－179
さざなみ姫	トペリウス作 矢崎源九郎訳	教育大学助教授			180－183
天と地の鏡	与田準一				184－192
太陽と星の下	小川未明	作家		童話	193－199
編集者の言葉	周郷博	お茶の水女子大教授			200

表紙　栗木幸次郎、　カット　立石鉄臣、斎藤長三、栗木幸次郎、羽戸歩々

『新児童文化』（第7集）「特集・子供の自由と規律」昭和26年6月1日発行　国民図書刊行会

記事	著者	執筆者紹介	画	ジャンル	ページ
目次					
特集・子供の自由と規律					
ニイルの児童心理学	霜田静志	ニイル研究家			４－18
ホーマー・レインの「親と教師に語る」	小比木真三郎	歴史学者			19－32
子供の自由と規律（ホーマーレインとマカレンコ）	矢川徳光	教育学者			33－40
子供の自由と規律（レインとニイルの批判によせて）	山下俊郎	心理学者・家政大学教授			41－46
編集だより					46
被虐待児と夫婦間の不調整を扱うケイス・ワーク	坊栄子	神奈川県児童福祉司			47－68
1950年の児童文学	船木枳郎	文芸評論家			69－73
1950年の児童文化界回顧	永井萌二	「週刊朝日」編集			74－77
手紙	与田準一	作家		詩	78－79
走れ、メロス	与田準一			詩	80－81
文部省純潔教育分科審議会編「男女の交際と礼儀をどう見るか」	宗像誠也	教育学者・東京大学教授			82－110
	秋田美子	全国保育連合会事業部長			
	国分一太郎	作家・教育学者			
執筆者紹介					110
各県児童福祉審議会の活動情況	各県審議会				111－121
座談会　日本の児童文学のあけぼの	小川未明	作家		座談会	122－133
	楠山正雄	作家・翻訳家			
	坪田譲治	作家			
	浜田広介	作家			

	古谷綱武	文芸評論家			
新人作品					
天の胡桃（丸山薫推薦）	那須貞太郎			詩	134－135
遠いなにか	那須貞太郎			詩	135－136
雪はおもく	那須貞太郎			詩	136
五郎のおつかい（坪田譲治推薦）	松谷みよ子			童話	137－144
児童作品					
ころちゃん日記（犬を育てて一ヵ年）	堅田浩	徳山氏夜市小学校二年生			145－178
百姓づら（国分一太郎推薦）	佐竹栄子・池上征子	三江小学校六年			179－187
編集後記	周郷博				188

表紙　関野準一郎、カット　立石鉄臣、斎藤長三、鷹山宇一